

## な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎗木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

このたびの東北地方太平洋沖地震により、  
被災されました皆さまに、謹んでお見舞い申し上

## 歴史の木戸の一步前

## 猪瀬 信彦

定年退職するまで、佐倉市の歴史に無頓着でしたが、市民力レヅジで佐倉城について講義を受けてから、初めて「古今佐倉真佐子」を讀んでみたいと思いました。讀むと言つても、もちろん原本ではなく佐倉市史編さん委員会で解讀した本です。これがなかなか難解ですが、ずいぶん長い間眺めているうちに、ぼんやりと何が書いてあるかわかるようになります。こうなると、書いてあることは、とても面白いのです。

三百年ほど前の佐倉城や城下町の様子、出来事、風習等が細かく書かれています。

また、この本の付図として、「総州佐倉御城府内之図」があります。これは、現在の動態図のようなもので、街並、小路、屋敷はもちろん、

そこに住んでいる藩士の名前まで記してあります。本文を讀み、現在の街並みと比べながらこの絵図を見ているとタイムスリップし、いつまで眺めても飽きることがありません。侍が胸を張って闊歩している姿や、商人が腰を屈めて行き来する姿が目の前に浮かんできます。

この絵図の複製は武家屋敷で購入できます。

本書の著者である渡辺善右衛門と言う藩士は、佐倉居住の15年の内、子供時代の10年余を、武家屋敷通り（宮小路）の、大聖院から二軒手前の屋敷に住んでいましたが、本文には次のようなことが書かれています。

「田辺権太夫屋敷向大屋敷にて田辺左仲、此西隣右坂（くらやみ坂のこと）の真上

也。（中略）此隣長沢伝左衛門屋敷、此隣今村道仙屋敷、此隣某父善右衛門屋敷、此屋敷に某二才より十三才迄住す」（著者は後年父の名を継いでいます）

子供の頃、助之進と言つたこの少年は、大聖院や、くらやみ坂、ひよどり坂を駆け回り、ふるさとの記憶を胸に刻んで、後年京都に御勤めの頃、ふるさとを偲びながら本書を書いたのでしょう。

「佐倉真佐子のことなら私にまかせて」と言う方は多いと思いますが、私と同じくこれから佐倉の歴史を勉強しようと言う方の参考になれば、と感じた事の一端を紹介しました。

佐倉の歴史は広く深い。だが、がんばってもう一步前に進めれば、歴史の木戸は開くような気がします。



（編集委員）

## たのしく生きる 八十歳男盛り

「おいおい後期高齢者が男盛りですかい」

電車やバスで席を譲られそうになって、「まだ同情されるほど老けてはいない」と、憤慨する人がいます。怒る前に席を譲らなくてはと、思われるほど老けて見られたのかと謙虚に自ら振り返ってみませんか。また怒ったことに同調してくれる人より、姿勢や態度を注意してくれる友をもちたいものです。

長生きすれば誰もが大切にしてくれるなんてことは、年寄りが少なく心が豊かだった時代の話。百歳以上が4万人を超えた高齢化社会では、見た目もいい年寄りにならないと相手にしてもらえない。定年になつたら数年で死ねた昔と違って長いながい老後を過ごさなければなりません。無精髭も剃らず、髪はばさばさ、汚い肌で暮らすのは

つらい時代なのです。

「いいオッサンが顔のシミやたるみで一喜一憂するなんて」と、バカにしてはいけません。という訳で心身共に健康でなければなりません。

そこでSTRESが必要で、もちろん世に言うストレスとは違います。最初のSはスポーツ、体を動かすことです。朝夕の散歩、軽いジョギング等々。Tはトラベル。気の合った仲間との旅行は楽しいものでしょう。Rはレクリエーション、趣味ですね。釣りをしたり絵を描いたり。Eはイート、食歩き、長年苦労をかけた伴侶との味道楽。Sはセックス。異性に対する興味を失わないこと。年寄りだからといって、いたずらに世の同情を求めたり甘えの心はもちたくないものです。笑う門には福来たる。これを実践していれば何歳になつても楽しく生きられます。

(上志津 永見 一)

## もっともっと 子ども自治を!

「佐倉おやこ劇場」からNPO「佐倉こどもステーション」と、20年近く、子どもたちと活動してきました。

組織運営ではいろいろ大変なことが多々ありましたが、いつも傍にいる子どもたちに元気をもらい、そのやわらかい発想力に感嘆する日々だったように思います。

子ども自治の活動に「子どもキャンプ」なるものがあります。小学校高学年から中学生、青年が自分たちの力だけで4日間をのりきります。障がいのある子どもたちも一緒に

ある日炊事当番をさぼって遊びに行ったつきり戻らない中学生2人を班の仲間がどうするか見ていたら、みんながこの2人の為にせっせとおにぎりを作り始めました。そこへ帰ってきた2人、にこにことし出されたおにぎりを食べると言われるまま口に入れ

たとたん、何とも言えない顔! なんと砂糖むすびだったのです。これが子どもたちの考え出した罰。大人とは全然違いますね!

山の登り降りの不得手な障がいのあるJ君の必死のがんばりに心を打たれ、班の仲間全員が一緒に帰ってきたり、4日間が終わる頃にはひとりひとり違うみんなが、仲間になりひとつになつていました。

子どもたちは認められ、まかせられれば必ず柔軟な子ども力を発揮する。それは今でも変わらぬ私の想いです。

もっともっと子ども自治を! 子どもたちに関わる全ての大人の方々へお願いしたい、今日この頃です。

(中志津 黒木裕子)



## 影ふみ

月夜の晩が 好きでした

姉が 二人と ぼく一人  
姉弟 三人 庭に出て  
影ふみをして 遊びます

屋根の向こうに 月が居て  
僕らの出るのを 待つてます

初めは 姉さん 鬼となり  
私の 影を 踏みに来る

おうちの 影や 木の陰の  
影の中なら 大丈夫  
私の影が 消えるから

五つ数えるそのあいだ  
逃げてしまえば よいのです

私の影を ふまれたら  
ふまれた 私が 鬼の番

幼い私が 追いかける  
姉の二人は 大きくて  
素早く逃げて 捕まらない

初めは少し 寒いけど  
しばらく 遊ぶと 暖かい

フウフウ ハウハウ

息 吐けば  
お月さんが  
笑ってる

母さん お出かけ

父も 留守  
姉が 遊んでくれました

月夜の晩の影ふみは  
お屋根の上に お月さま  
青くて 白くて まん丸い

月夜の晩が好きでした

(上志津 徳武 寛)



## 新しい農法を見て

10月初旬、友人に誘われ  
て信州は茅野市で稲作と野菜  
作りの新しい農法の開発に取  
組んでいる方を訪問しました。

農家の長男の生まれですが  
農業を継がず、諏訪市の大手  
時計メーカーの研究開発部門  
で活躍されました。平成5年  
に定年退職され農業に取組み  
始めました。研究開発に携わ  
っていたエンジンアらしく、  
地球のメカニズムや土壌の研  
究をしながら、稲作は2町歩  
の田圃と他に野菜畑を実験場  
として、新しい農法の開発に  
着手しました。15年に亘る  
苦心の末、農薬も化学肥料も  
使わず雑草取りもせず、立派  
な稲穂を実らせ、生き生きし  
た野菜を育てることに成功し  
ました。「フィールド農法」と  
名付け国内や海外で特許出  
願をしました。アイガモ農法  
や不耕起農法は広く紹介され  
ています。原理的にはこの  
応用と言えるそうです。

原理とは空中窒素を効率よ  
く固定化することで植物の成  
長には大きな差が生じます。

空中窒素を固定化する微生物  
は、古代絶対嫌気性菌や光合  
成菌などです。これらの菌が  
豊富な土壌では菌が生産する  
酵素が植物の根を活性化させ、  
強い根は真つすぐに伸び、雑  
草に負けず土中の水と栄養を  
とり込みます。15年間に及  
ぶ研究によりこれらの菌を豊  
富に含む堆肥と酵素を含む液  
を創りました。この堆肥と液  
により土壌を改良すると、土  
の中に自然の力による肥料工  
場ができるわけです。田圃や  
畑を豊かな自然の成長力に満  
ちた里山に変えるのです。

農業の省力化や効率化、食  
の安全を目指して、彼は一人  
でも多くの仲間を募り「フィ  
ールド農法」を広めたいと願  
っています。

(稲荷台 辰巳洋司)

## 4月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

### わくら道

一日一回 自分をほめる  
一日十回 大声で笑う  
一日百回 深呼吸をする  
一日千回 文字を書く  
一日一万歩 歩く  
平均年齢70歳の若者(?)が8名、スキー合宿に集まった。ゲレンデ中を滑りまくり夜の宴会で、この健康の菜の文面を話題にのせた。  
20年程前には参加者が20名を越えていた中、今もなお元気に参

### あとがき

昨年から編集に携わっております。心もとないままにスタートして、1年が経過し、その間、諸先輩より教えられ励まされながら、勉強第一の思いで続けております。  
委員となつて変わったことがいくつかあります。まず辞書をよく引くようになりまして、あやふやな漢字を確かめ、意味の奥深さにビックリしながら新たな気持ちで取り組ん

加出来た各自の健康と、スキーの足前の衰えも無い事を全員でほめ合つ。

芸人顔負けの話術の持ち主からは、おなかの皮がよじれる程爆笑させられる事十回どころでなし。百回の深呼吸と一万歩なんぞは昼間のゲレンデで充分！充分！と大唱和。

さて千回の文字を書くは？と勝手にトーンダウン。毎回送り出して下さる奥様に感謝状を書いたらと提案すると、「酔いが醒める！」と一喝された。

(坪井栄子)

でいます。また、日記を毎日欠かさず書くようになりまして。単なる記録から、文章になるように努力しています。書くことの楽しみも知りました。これからはもっと語彙を増やして、表現力をつけていきたいと思ひます。  
大勢の皆様から戴く原稿は、私にとつてとても勉強になる楽しみな教材です。沢山の投稿、お待ちしております。

(大蔵康次)